



①山の斜面に見渡す限りの梅林。残っている緑色の大部分がウバメガシ等の薪炭林。②ニホンミツバチは外来種のミツバチと異なり、おとなしい性格だという。③県木であるウバメガシは紀州備長炭の原材料となる。

和歌山の里山に広がる、世界に誇る伝統的農業システム

2015年に認定された世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」。養分が乏しい土壌であり、平地が少ないという状況の中、江戸時代から400年以上にわたり高品質な梅を持続的に生産してきた梅システムには、優れた秘密があった。

限られた条件下でニホンミツバチが梅の受粉を助ける。梅林の上部にはニホンミツバチが生息するウバメガシ等の薪炭林を残し、保

水機能を持たせ、梅や平野部の農作物に水を循環させる。

さらにこの地域では昔から住民同士の結びつきが深く、協力しあって収穫し加工する6次産業が行われていた。これら全てを繋ぐ生態系と、梅という産業がもたらした地域独自の文化と里山の景観。自然と人間が共生したこの世界に誇るべきシステムが、世界農業遺産として評価された。



アフリカの若者が訪れ学ぶ  
みなべ・田辺の梅システム

みなべ町では国の事業の一環として、エリトリアやナイジェリア、南アフリカなどアフリカの若者を受け入れ、世界農業遺産であるこの優れたシステムを技術支援として教える活動も行なっている。また地元の若い人たちとの交流や和歌山の文化に触れる体験も、好評だという。

みなべ町うめ課  
住所／日高郡みなべ町芝742  
電話／0739-74-3276

江戸時代に造られた全長32.5キロの農業用水路

2017年に世界かんがい施設遺産に登録された「小田井用水路」。それは300年以上前の江戸時代、大畑才蔵により整備された。

紀の川北岸地域は古くからよく干ばつに襲われた。その問題を解決するために紀の川を水源とする用水路の開発を命じたのは、後に江戸幕府八代将軍となる紀州藩主徳川吉宗だった。この大工事を

短期間で完成させるには、各地で一斉に作業を進める必要があり、そのためには正確な測量と精密な設計図が必要だった。そして当時の最先端技術を用いて造られた水路により、1000ha以上の水田が新たに開発された。

その後も小田井用水路は何度も改修を重ねられながら、今も紀の川流域の農業を支える大動脈として大切に守られている。



現在の龍之渡井(たつのとい)。建築された当初は木製であったが、大正8年に近代化され、レンガ・石張り造りに改修され今に至る。現在でも小田井用水路は約600haもの水田に水を供給し続けている。吉宗はこれらの技術を開東平野の開発にも導入し、「紀州流」として、その後の土木技術が受け継がれているという。紀州人の技術力の高さもまた、世界に誇るべきモノである。



丹生都比売神社近くで  
日本刀鍛錬体験

橋本市生まれの刀工濱川貞純さんが新築した日本刀鍛錬場では、神道や仏教と結びつきが強い日本刀の鍛錬体験を開催。火を使わないペーパーナイフや本格的な小刀を作る2つのコースがある。

濱川日本刀鍛錬道場  
住所／伊都郡かつらぎ町上天野236  
電話／0736-20-4929  
メールアドレス／kajiya-sadasumi@leto.eonet.ne.jp

世界から観光客が訪れる世界遺産は、神秘とホスピタリティが感じられる聖域。

和歌山県・奈良県・三重県にまたがる世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」。熊野三山、高野山、吉野・大峯の3つの霊場とそれらを繋ぐ参詣道が登録対象となった、世界でも珍しい道の世界遺産である。

標高千メートル級の山々が連なる紀伊山地は険しく、人々を容易に寄せ付けない。しかし多様な生態系が広がる神秘的な森の中を歩いてみると、なんだか懐かしい優しさすら感じる。起源や歴史、信仰の対象が異なる聖地が寄りあう、世にも稀なエリアである。そして豊かな自然と優しい人々との出会いは、世界中の人々を魅了する。

また2016年の登録資産の追加や、世界有数の旅行ガイドブック「ロンリープラネット」で旬な旅行先として取り上げられるなど注目度も上昇し、外国人旅行者が増加。今では年間約48万人を超える外国人観光客の方々が訪れている。

①約20万基の墓石や慰霊碑が立ち並ぶ高野山奥の院参道。壇上伽藍と共に高野山の中で最も神聖な場所。②真言密教の教えを体現する象徴として建てられた根本大塔。③壇上伽藍に建てられている御社。天野社から地主神として勧請した。神仏習合のシンボリック的存在。

④森厳な雰囲気にも包まれる熊野本宮大社。⑤朱塗りの本殿が目にも鮮やかな熊野速玉大社。⑥那智山の中腹に位置する熊野那智大社。⑦熊野那智大社に隣接する那智山青岸渡寺。1590年に豊臣秀吉が再建した。⑧熊野那智大社へと続く大門坂。熊野古道でも人気のある場所のひとつ。

熊野の魅力を英語で紹介  
外国人向けガイドブックが発刊



年々増加する外国人旅行者に熊野(中辺路)の魅力を詳しく紹介するオールカラーオール英語のガイドブックが発刊された。監修は田辺市熊野ツーリズムビューローで働く、カナダ生まれのブラッド・トウルさん。高野山や小辺路なども発行予定。

(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー  
住所／田辺市湊1-20田辺市観光センター内  
電話／0739-26-9025  
ガイドブック:KUMANO KODO Official Guide  
仕様／サイズ:A5 頁数:230P 価格:1728円

創建2050年を迎えた熊野本宮大社  
熊野本宮大社が旧社地である大斎原へ鎮座したのが紀元前33年、崇神天皇の頃だと伝わる。1年を通して様々な特別行事が開催されている。

西国三十三所草創1300年  
病に伏す徳道上人が閻魔大王からのお告げを受け、人々に信仰を説き、霊場へ参ることをすすめた718年から始まったといわれる。第一番札所是那智山青岸渡寺。

